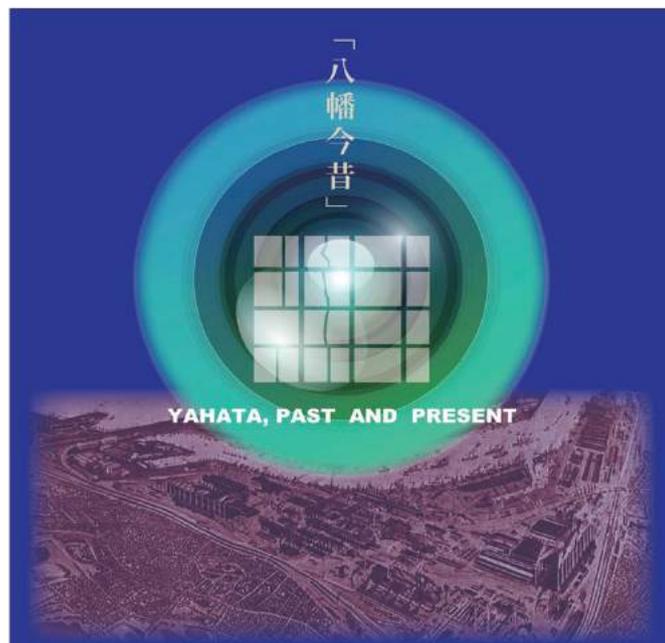


第46回 まちづくり研究セミナー

JIA建築展 vol.18・日韓合同学生ワークショップ

「まちのリノベーション」

報告書



2016.11

まちづくり研究セミナー事務局

■ 建築展18

期 間	①: 2016年10月1日(土曜日)～10月14日(金曜日)	北福岡地域会 会員作品
	②: 2016年10月15日(土曜日)～11月7日(月曜日)	北福岡地域会 会員作品
	③: 2016年11月8日(火曜日)～11月24日(木曜日)	ワークショップ参加大学作品

会 場	①: JICA九州 / 国際センター	北九州市八幡東区平野2-2-1
	②: 八幡祇園町商店街内	北九州市八幡東区祇園2丁目
	③: 八幡祇園町商店街内	北九州市八幡東区祇園2丁目

展 示	JIA2015年新人賞作品	
	<input type="checkbox"/> 柳澤 潤(株式会社コンテンツポラリーズ)	作品名:えんぱーく(塩尻市市民交流センター)
	<input type="checkbox"/> 河内 一泰(河内建築設計事務所)	作品名:アパートメント・ハウス

JIA北福岡地域会会員作品

安東建築設計事務所
 (株)小川建築設計事務所
 北九州市立大学福田研究室
 (株)スズキ設計
 平建築設計事務所(有)
 (株)高橋環境建築設計
 (株)東畑建築事務所
 (株)豊川設計事務所
 (株)洋建築計画事務所

会員9名(パネル:13枚,模型:2個)



ワークショップ参加大学(発表順)

北九州市立大学(Aチーム)
 東西大学(Aチーム)
 北九州市立大学(Bチーム)
 東西大学(Bチーム)
 北九州市立大学(Cチーム)
 日本文理大学
 釜慶大学(Aチーム)
 九州産業大学
 釜慶大学(Bチーム)
 近畿大学
 釜山大学
 九州工業大学

8大学12チーム(日本:5大学7チーム,韓国:3大学5チーム)



スタッフ	(地域会長) 永澤 正哉				
	(副会長) 松島 逸人	戸村 一樹	(相談役) 服巻 良樹		
	(幹事) 三迫 靖史	熊谷 平一郎	佐久間 治	杉野 友紀	
	(建築展実行委員長)	塩釜 直人			
	(建築展実行副委員長)	小原 光晴			
	(建築展実行委員会)	浅田 典生	満井 輝吉	加藤 史衛	安東 崇夫
		高橋 雅彦	石垣 充	金子 英造	松岡 伸二
		高濱 和久			

■ 第46回 まちづくり研究セミナー「建築セミナー」

日 時 2016年10月1日(土曜日) 13:00～16:00

会 場 JICA九州 / 国際センター 大会議室 北九州市八幡東区平野2-2-1

参加者数 150名 (WS参加学生43名, その他学生48名, JIA17名, 建築事務所14名, 関係業者20名, 北九州市1名, その他7名)

講演会1 講師:JIA2015年新人賞受賞
柳澤 潤 (株式会社コンテンポラリーズ) テーマ: 公共への試み

概要: 自身の建築作品をもとに「公共建築は造って終わりなのか?」という御本人に抱いている問いに対して、考えられていることを語っていただきました。
個人住宅の際は、プライベートを超えて住宅に公共的な考えを提案したり、公共建築では、市民がどうやったらもっと自由に公共(公共建築)を生かせるのかを作品を使って説明されました。

講演会2 講師:JIA2015年新人賞受賞
河内 一泰 (河内建築設計事務所) テーマ: つながりの建築

概要: 「インテリアデザインとは1つの空間のデザイン、設計とは2つ以上の空間の関係性をデザインすること」自身の設計に対する考え方を、建築作品をもとに語っていただきました。
住宅の設計が主であり、クライアントの要望(眺望や6角形、多部屋の家など)を取り入れながら、「マジカルナンバー7」や「空間密度」など独自の指標を用いて、空間構成の関係性を考えて設計していることなどを説明されました。

今回、セミナーの2名講師の建築作品は大小あり、出席された学生等のアンケート結果からもわかるように、非常に有意義な時間だったのではなかとと思います。



■ 第46回 まちづくり研究セミナー「ワークショップ課題説明」

日 時	2016年10月1日(土曜日)	16:00～16:10
会 場	JICA九州 / 国際センター 大会議室	北九州市八幡東区平野2-2-1
参加者数	57名 (内WS参加学生39名)	

テーマ:「まちのリノベーション」

2000年代に日本は人口減少期に入りました。都市部に人口が集中する一方で、郊外では高齢化による住宅地の老朽化や低密度化、地元商店街の衰退など、ある共通の状況が現れています。

今回の敷地となる八幡東区の住宅地も、1970年代の高度成長期に「鉄の町」として栄えていましたが、現在は3人に1人が65歳以上となり、全国的にも超高齢化した町となっています。宅地は歯抜け状に駐車場となり、かつて町の中心であった商店街はすたれています。

このワークショップで考えるのは「また昔のように人を増やして町を活性化しよう」という事ではありません。人口や経済、産業は変化するものです。現在の郊外を俯瞰した時に、どのような建築やデザインの可能性が広がっているかを考えてほしいと思います。町の人が減るということは、一人あたりの空間は増える事であり、余白の空間をデザインするチャンスだと考えられます。

高齢化した町の人々が、生涯住み続ける町はどんなものか？この時代に合せて豊かに使い続けるための、まちの将来像を提案してください。

柳澤 潤 河内 一泰

◇提出内容 : A1サイズパネル(枚数自由)、模型、PDFデータ、その他

◇クリティーク: 上記の図面、模型などをもとに発表する。

◇注記: 敷地境界線を変更したり、道の空間をデザインするなど、現実的には難しい提案でも自由に発想してください。

□ 八幡東区祇園二丁目



■ 日韓合同学生ワークショップ

□ プレワークショップ/制作指導

日 時	2016年10月22日(土曜日)	開会 13:30 ~ 閉会 16:00
会 場	西日本工業大学大学院 小倉地域連携センター 4階401講義室 北九州市小倉北区室町1-2-11	
参加者数	52名 (WS参加学生38名, JIA10名, その他4名)	
参加校	北九州市立大学・九州工業大学・九州産業大学・近畿大学・日本文理大学	
講 評	柳澤 潤 (株式会社コンテンポラリーズ)	河内 一泰 (河内建築設計事務所)
	尾道 健二 (九州共立大学名誉教授)	岩下 陽市 (元九州職業能力開発大学校教授)
	JIA会員	

概 要

各チームが前回の素案で頂いたアドバイスを基に、提案コンセプトを発表し、講師の先生方と意見交換を行いました。

今回初めてビデオ電話を使い、講師の先生方に参加して頂きました。

前回までは北九州の先生方とJIA北福岡地域会員で講評をしていましたが、講師の先生方にも参加して頂く事で、より内容の濃いプレワークショップになりました。

但し、後日講師の先生方から、映像での参加なので、学生や会場の熱意が伝わりにくかったとの話がありました。この辺が今後の課題となると思います。



■ 日韓合同学生ワークショップ

□ ワークショップ1/制作指導

日 時 2016年11月5日(土曜日) 開会 10:30 ~ 閉会 18:00
 会 場 JICA九州 / 国際センター 大会議室 北九州市八幡東区平野2-2-1
 参加者数 88名 (WS参加学生67名, JIA17名, その他4名)
 参加校 □日本 北九州市立大学・九州工業大学・九州産業大学・近畿大学・日本文理大学
 □韓国 釜山大学・東西大学・釜慶大学

講 評 柳澤 潤 (株式会社コンテンポラリーズ) 河内 一泰 (河内建築設計事務所)
 尾道 健二 (九州共立大学名誉教授) 岩下 陽市 (元九州職業能力開発大学校教授)
 参 加 益田信也 (近畿大学教授) 菅雅幸 (日本文理大学教授)
 近藤正一 (日本文理大学教授) 福田展淳 (北九州市立大学教授)
 劉載祐 (釜山大学教授) 吳基煥 (東西大学教授)
 盧志和 (釜慶大学教授) 洪知完 (新羅大学教授)
 JIA会員

概 要 韓国の学生はWS1からの参加となります。講師の先生方が各チーム毎に提案を聞き学生達と活発に意見を交わしました。比較的小さな会場だったこともあり通訳を入れながら、自チーム以外の意見交換も聞く事ができました。その後、意見を参考にして各校最終日のクリティークに向け提案内容の仕上げを行いました。



■ 日韓合同学生ワークショップ

□ ワークショップ2/クリティーク

日 時	2016年11月6日(日曜日)	開会 9:30 ~ 閉会 18:30
会 場	JICA九州 / 国際センター 大会議室	北九州市八幡東区平野2-2-1
参加者数	98名 (WS参加学生67名, JIA19名, 商店街2名, 北九州市2名, その他8名)	
参加校	□日本 北九州市立大学・九州工業大学・九州産業大学・近畿大学・日本文理大学 □韓国 釜山大学・東西大学・釜慶大学	
講 評	柳澤 潤 (株式会社コンテンポラリーズ) 尾道 健二 (九州共立大学名誉教授)	河内 一泰 (河内建築設計事務所) 岩下 陽市 (元九州職業能力開発大学校教授)
参 加	益田信也 (近畿大学教授) 近藤正一 (日本文理大学教授) 劉載祐 (釜山大学教授) 盧志和 (釜慶大学教授) 神谷英晃 (八幡祇園町銀天街協同組合理事長JIA会員)	菅雅幸 (日本文理大学教授) 福田展淳 (北九州市立大学教授) 呉基煥 (東西大学教授) 洪知完 (新羅大学教授)

概 要

各チームの完成作品の発表およびクリティークが行われました。

日本、韓国の学生や留学生チームが通訳を交え、作品への思いを熱く発表しました。

9時間(休憩含む)の中12チームのクリティークという事もあり、非常に時間がタイトになり、学生同士の交流をする場をうまく設けられなかったのが残念でした。



■ 提案作品(発表順)

① 北九州市立大学 Aチーム

【河内賞】

担当教授：赤川 貴雄

参加者：村地 遥花, 藤原 昂樹
 澤山 晴菜, 山本 由希
 開原 航平, 上田 健陽



テーマ：まちの横断歩道

余剰地等を繋げてみると、桜道りと商店街をつなぐ”新たなみち”が見えてきました。この両端に食堂、託児所を、そしてその間に幾つかの、屋外ですが人々の滞留するスペースを設けました。これらは道と一体化し立体的に計画されています。これを私達は、”まちの横断歩道”となづけました。これらは、今この地域において特に必要と思われる多世代間における、多様で豊かな交流を促すものとして整備する計画です。

河内先生：アイデアは面白く優れています。ただより優れた案にするためには道をより立体的に計画するべきと思います。これをインテリア化された多様な外部の室や庭などを繋げた空間として捕らえなおし考えてみることでできそうです。

柳澤先生：この形を発見したことがすばらしい非常に魅力的です。大小様々なものをより魅力的に楽しい空間としてプレゼンすればなおよかった。ここで更に魅力ある空間を探し、拡げていければ真の”まちの横断歩道”となるでしょう。



■ 提案作品(発表順)

② 東西大学 Aチーム

担当教授 : Oh Kie Whan (呉基煥)

参加者 : Park Jun Gu, Lee Seul
Yoon Jong Chan,
Yang Sae Rom,
Park Jin Ha



テーマ : 余裕

空地を桜並木に沿って、直線状に有効に確保し地域の住民が集いやすい立体的な多機能な空間を構成しました。

1階は、ピロティでオープンスペースとして通路以外に多機能な空間を想定しています。2階は、スタアスペースとして飲食店や物品販売業のお店など商店街の機能を有する空間を構成し、3階は地域の住民が集えるコミュニティスペースを構成します。

屋根は、波の形状で横から光をとりいれて大きく上下しているところは、製鉄の町の栄枯盛衰を表現しています。

柳澤先生 : 道路から1階のオープンスペースがあって桜並木が見えるように視覚的にわかりやすい事は良い事だと思います。

計画予定の規模が、かなり大きすぎて人々が賑わいを取り戻すには無理があるので計画案を縮めて検討したほうが現実的である。



■ 提案作品(発表順)

③ 北九州市立大学 Bチーム

担当教授：福田 展淳

参加者：濱 陽平

出端 彩乃

寺田 拓也



テーマ：まち全体を大きな民宿に。

空家の有効利用、商店街のリノベーション、新しいメインロードの3提案を軸に街全体を民宿として機能する街を目指します。街の空家をスケルトンとしガラスで包みギャラリーとします。又、銭湯、飲食店、コワーキングスペースを配置しコミュニケーションに配慮しています。新メインロードは、アーチフレームの連続で構成し、人々を誘導する装置として設置しました。

河内先生：街全体を宿泊施設とした提案は面白いと思います。メインロードのゲート廻りを、使い方や素材などを含めもっと細かな提案をしたほうが良いと思います。

柳澤先生：ゲートの提案を形、素材、使用方法等を具体的なものがほしかったと思います。例えば、照明として、又、住民と共同で作成して住民参加型とするなどストーリー性を持たせると新しいメインロードとなる可能性が生まれると思います。



■ 提案作品(発表順)

④ 東西大学 Bチーム

【JIA特別賞】

担当教授：Oh Kie Whan (呉基煥)

参加者：Eom Ji Su, Jeong Yun Cheol
Ko Seung Wan, Paik Ji Min
Park Nam Hee,
Baek Jeong Min



テーマ：空間の広がり Spread Of Space

北九州固有である都市の記憶から、「鉄」のキーワードを選び出した。「鉄の街」・「鉄の工芸品」をテーマにして、町が活性するようにデザインを行った。3つの場所で鉄をテーマに商業施設を計画した。

柱があり屋根があるが、壁がない空間を提案した。開放的な積層空間には、階段やスキップフロアのような段上スラブ、スロープ、既存建物からの空中デッキにより接続されている。積層床により、町に新しい関係性を作り出す。

河内先生：「立体的な空き地」としての提案の可能性を見いだせます。「立体的な外部空間」としての提案ならば、階段がない方がいい。スロープでつなげるグラデーショナルな積層方法が良かった。

柳沢先生：鉄骨柱が斜めに突き刺さっているイメージパースが格好良くできている。

「建物と外部との関係性」を詳細に詰めて、丁寧につなげていくと、より魅力的な空間になると思います。



■ 提案作品(発表順)

⑤ 北九州市立大学 Cチーム

【まちづくり研究セミナー賞】

担当教授：デワンカ・バート

参加者：YONI・RAHARDI
NOICHAN RUNGPANSA
MUNAWIR
FARIS NURSIDIK
NGUYEN HUY HOANG



テーマ：大屋根の下の空間「in-between space」

既存の敷地境界線を取り払い、各住戸の間をガラスの大屋根でつなぐことで、開放的な共用の大きな緑の庭を得ることができます。これにより、人々は外に出て様々なアクティビティーを行うようになります。

春にはお花見を、そして畑を作ったり、そとで食事を楽します。住民たちは、これを段階的に広げてゆき、開放的で美しい街を構成していきます。

河内先生：ガラスの大地を人が上がるスペースから、ただの大屋根に昨日の提案から変更したことは、いいことだと思います。これにより、プライベートの空間と共用の空間を隔てることができました。

柳澤先生：大屋根を屋根だけにした決断は素晴らしかったです。緑の芝生をフェイズ1、2、3と段階を経て広げていく提案にすれば、もっとリアリティーがでてよいプレゼンになったと思います。



■ 提案作品(発表順)

⑥ 日本文理大学

担当教授：菅 雅幸

参加者：上杉 亮太，宮野 行雲
三重野 和，平良 咲
小成 祐一郎，
森崎 良太

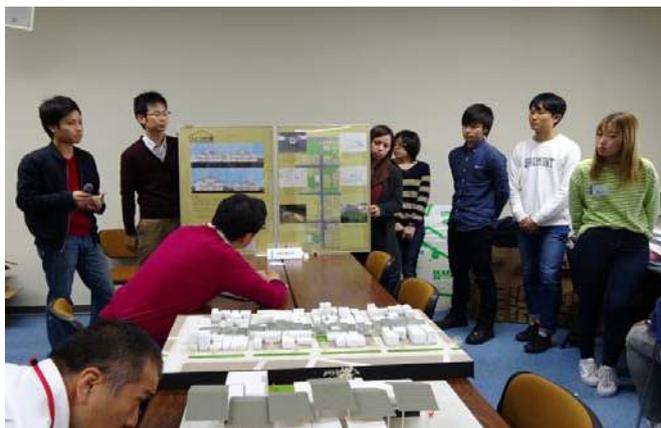


テーマ：「ひとつの家」

「家」の各要素(リビング、キッチン、書斎等)を多くの人が共有できるように、その機能及びスケールを拡大し、街の空白部分に配置します。既存のアーケードの柱を利用して、街全体を新たな大きな屋根で覆います。各要素は、屋根の下で繋がり、またアーケードにそれらがはみだしてきます。

河内先生：既存の建物の上に、屋根をかけることで新たな空間ができたことはいいことだと思います。あとはそれらの空間を活かすために、補助的な仕組みが必要かと思います。

柳澤先生：屋根については、商店街だけではなくその周辺を飲み込むべく伸びるイメージが必要かと思います。これだけの大屋根であればストラクチャーのシステムを明確にする必要があると思います。



■ 提案作品(発表順)

⑦ 釜慶大学 Aチーム

【柳澤賞】

担当教授 : Roh Jihwa (盧志和)

参加者 : Kyungho KIM

Geoseong PARK

Seunghyeon SON

Jintae KIM

Hancheol LEE



テーマ : 木(Key) ROAD

駐車場と空家・空地に新しいプログラムを与えつなぐことで、新しく木の枝状のみちをつくる。それはみちと呼ぶにはふさわしくないくらい多様な使われ方が想定されたスペースであり、コミュニケーションを促し、多様なアクティビティを誘発させ、既存の景観に干渉することで新たなシーケンスを生み、まさに新たに大きな魅力を与えることができると考えています。

河内先生 : 既存のまち(黒地)の上に新しいみち(白地)を重ねることでまちをつくり変えようとした非常にビビッドな提案です。

新しいみちと既存がより刺激的に干渉デザインで示されていれば、よりコンセプトに沿ったものとなった筈です。

柳澤先生 : ツリー状のプランがとても美しいと思います。

みちの使われ方の多様さを想像させるような具体的なデザインが示されれば、さらによい提案でした。

みちはいわば“キャパシティーを持ったパスのようなもの”であり魅力的なものだと思います。



■ 提案作品(発表順)

⑧ 九州産業大学

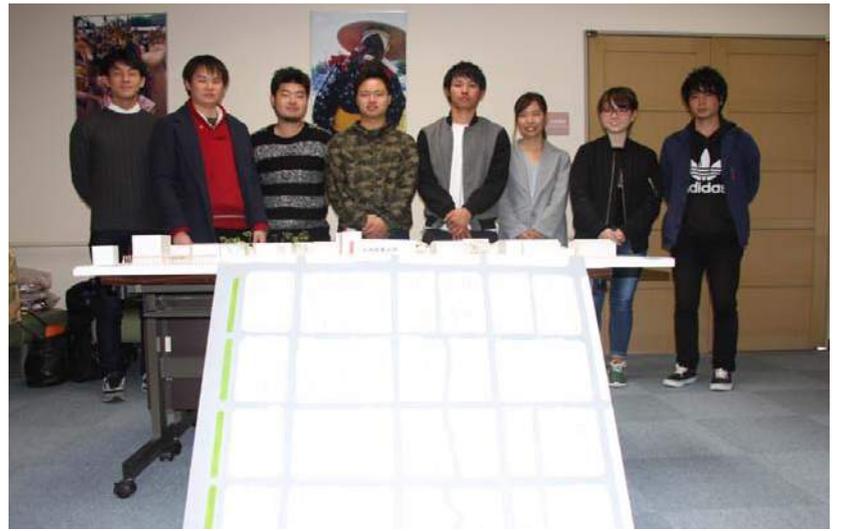
担当教授：矢作 昌生

参加者：塩真 光, 長家 徹

内野 友貴, 下津 皓平

川口 真愛, 志賀 織晃

小澤 成美, 戸上 夏希



テーマ：余白を繋ぐコミュニティー道路

近代以降、合理化されて機能優先になった道路を、それ以前のコミュニティとしての道路に再生する案。対象は、アーケードに直行する銭湯南側の道路。歴史ある風景を残すため道路沿いの既存建物の躯体のみを残して、広場、休憩所、談話スペースの機能を入れ込む。交差点部分に、廃材を利用したブリッジ状の工作物を新設し人の交流を促進する仕掛けとする。そこでの交流が地域の人々の生活が豊かになり、町の豊かさに繋がるという提案。

河内先生:道と敷地の境界が単純であるより、ズレたり、はみ出したり、ズラしたりする操作をして、相互に複雑に絡み合う方が、人や、その想いが溜まったりする面白い構成、豊かな空間が提供出来るのではないかと。

柳澤先生:同様に道路の出し入れの操作をした延長に、仮構や道路際、その出入口、そしてその表情等、デザインが生まれると思う。昨日からやっとそのデザインの入口に立った状態である。ここからが面白い所なので今後頑張りましょう。



■ 提案作品(発表順)

⑨ 釜慶大学 Bチーム

担当教授 : Roh Jihwa (盧志和)

参加者 : Ahn Jin Yong

IkJu SONG

SungWook CHOI

HyeonJin Yu



テーマ : 街区の境界部分で重ね合わせてみると「Collaspe Village boundary」

商店街街区の間の交通の流れが速い道路の境界部分にイベントなどを行える外交的ペDESTリアンデッキを整備する計画。

住宅街区の隙間をぬって境界部分に庭や縁側の延長となうような内向的ペDESTリアンデッキを整備する計画。

この特徴ある2種類の街区をつなぎ合わせる歩行空間をもって、現在の形態を変え、都市機能の再生を狙った。

道路で分断された街区をつなぎ合わせを考えた新しい空間の創出の試みである。

河内先生 外交的ペDESTリアンデッキは近接する大学との連携も考慮されており、とても面白いと思う。

内向的ペDESTリアンデッキの利用には多少のコミュニケーションの良さが必要だろうと感じた。

柳澤先生 内向的ペDESTリアンデッキは近接する小学校との連携を考えてもよかったのではないか。

外交的ペDESTリアンデッキは商店に人を誘導でき、光を取り入れる開口もあり、納得いく計画である。



■ 提案作品(発表順)

⑩ 近畿大学

担当教授： 益田 信也

参加者： 元村 賢哉, 馬場崎 千穂
 守田 駿, 藤原 丈武
 野坂 響, 恵良 直典
 中村 直己, 大棚 紀輝



テーマ：「WA:輪がりとみ話す」人々が輪がり会話を通して和むことで豊かな生活をおくことを期待。人々が輪がるきっかけの場として、桜通りと商店街や町をつないでいく仕掛けとして、アーケードのある場所をアゴラとして開放し、空家や空地のある場所をポケットパークとし、これらをつないでいく小路を作る。

地区の導入部としてのアゴラと、ポケットパークをネットワーク化し日常の交流を促し豊かな生活につなげていく。

柳沢先生：アゴラのデザインに違和感がある、ただのオープンスペースではなくアゴラと商店街・住宅の部分が常に吸収と排出を繰り返していく場としての関係性を構築しデザインすべきである。

河内先生：アゴラからポケットパークにつながっていく導入部の表現に魅力がない。アーケードの路面店がアゴラを作ることによって価値が上がるはずであるが、それを考慮したデザインをして欲しかった。

岩下先生：地域の人々が交流する場としてポケットパークに畑を設けてた点は今後の高齢化社会を考える点で面白い。



■ 提案作品(発表順)

① 釜山大学

担当教授 : Yoo Jae Woo (劉載祐)

参加者 : Kim Sangeon, Jeong Jaeyoon
Kim Byungjin, Lee Goeun
Jo Hansol, Choi Dongseok



テーマ : Band-AGE

八幡の老朽化している街(人と人の間)の空白を埋めることにより、コミュニケーションを生み出したいと考えた。アーケードと神社を重要ポイントと考え、景観的に近づける方法として、アーケードを歩行者の安全を考慮して新しくし、空家・空地を再開発して緑地帯としてまとめる。空家は構造体を痕跡を残すように解体し、基礎はベンチ、木軸部は工房として利用する。提案した緑地帯(ベルト)が、10~40年後、どのように、周囲の街も含め影響するかを考え作成した。

河内先生: 緑地帯や痕跡を残すという発想は面白いが、広場に造った新しい道等が強すぎて、広場の中に遺跡があるように感じてしまう。

柳澤先生: 緑地帯がどれくらい効果があるかは大事。大学・小学校・新興住宅地を繋ぐ要素にもなっている。緑地側に工房を集めた方が良かったと感じる。また、40年後の周辺状況まで考えたのは良かった。



■ 提案作品(発表順)

⑫ 九州工業大学

【八幡祇園町賞】

担当教授：佐久間 治

参加者：野口 亮太, 今井 智也
河原 ゆい, 徳永 晋
平井 文姫, 吉永 康平
長谷川 千里, 吉田 勝民
李 浩喆, 王珍佳



テーマ：持続する文化の継承 ～「場」と「場」をつなぐ空間～

商店街の思い出や文化を未来へつなぐ提案を目指しました。文化を継承しつつまちの更新を促し、その効果が持続的に継続する仕組みとしています。具体的には、前田中央市場と堀川市場に現存する木造大スパン架構を商店街の象徴として残すこと、そのスケールのコントラストや歴史を活かしたリノベーションによって商店街を象徴する一施設にスケールダウンすること、によって、ここが残す場(継承)となり、そして周辺が更新される影響を発信できる場となるよう計画しました。

河内先生：前日に議論した、通りからの「抜け」に対して一つの解決案になっており、床の断面操作やステージ性等がイベントを誘発する楽しい提案になった。お店になる壁などはより良い提案の余地があると思います。

柳澤先生：プランも計画もしっかりと出来ている点が高く評価できます。スロープと空間のつながりが良い。品物等の陳列まで考慮されると良いと思います。まとめ方など一点からのアプローチという手法による優れた提案です。

